

# SEED (シード)

Vol.004  
2022.9月

令和4年度「駒大生社会連携プロジェクト」の採択プロジェクトが決まり、3ヵ月が経ちました。今号では、4つのプロジェクトの7～9月の活動内容をメンバーからレポートをしてもらいました。

〔世田谷区部門〕

地域プロジェクトによる市民育ち—用賀と深沢における参加型調査研究（文学部：李妍焱先生）

8月27日、28日に「用賀サマーフェスティバル」を開催しました。資金不足や人員不足といったトラブルに追われながらも、当初の予定通り開催することができ、過去最高潮の盛り上がりを見せました。様々な困難にぶつかりながらも、それらを乗り越えた時の達成感は素晴らしいものであると実感しました。また、この熱く深いコミュニティに参加できたことはとても大きな経験となりました。



また、ふかさわの台所では、秋のイベントについて話し合いました。好評だった「おかしのまちづくり」の第2弾は、フードライブで収集したお菓子を使って開催する予定です。周知をはかるために、自治会長の方と連絡をとり、ポスターの掲示場所をリストアップするなど、広報に力を入れています。今までの企画では、子どもとその親としか関わってこなかったため、自治会との連携を通じ、幅広い年代との交流を深める所存です。

〔社会連携センター：プロジェクト見学レポート〕

文学部：李 妍焱先生のプロジェクトの活動を見学しました。

世田谷区部門で採択された、文学部の李 妍焱先生のプロジェクトが取り組んでいる「用賀サマーフェスティバル」を見学しました。

このイベントは8月27日、28日に東急田園都市線用賀駅の近くにある「くすのき公園周辺」で開催されました。新型コロナウイルスの影響により今回が4年ぶりの開催とのことで、たくさんの皆さんが来場されていました。ステージ企画や出店、昔遊び体験コーナーなどいろんな方が楽しめる企画が満載で、地域の皆さんが一体となった、笑顔と熱気に満ちたイベントでした。



今年から経済学部で新規開講した「アントレプレナーシップ養成講座」では、本格的な問題解決型学習 (PBL: Project Based Learning)、実践体験型PBL授業に取り組みました。履修者は、経済学部2年～4年の160名。

第3弾のPBLは、株式会社シンシアージュ (代表取締役CEO 久木田敬志) と連携し、6月～7月に実施しました。同社は、「どこでも社食」を運営するITベンチャー企業です。コロナ前は本学の学食が大変混雑していましたが、同社はその課題に対して長山ゼミと共同し、大学周辺の飲食店全体を学食に見立てた「どこでも学食」というアプリをリリースした経験を持っています。

PBLのテーマは、シンシアージュが新規事業として進めているオンライン子ども大学「こどハピ (<https://kodohapi.com/all/>)」に関する企画立案です。学校では学ぶ機会の少ない「お菓子作り」「プレゼン (話し方) 教室」「片付け教室」「水彩画教室」など授業内容は多岐に渡ります。こうしたユニークな授業ができる講師を集め、一方で受講したい子供 (受講させたい親御さん) を集める、そしてその両者をマッチングするプラットフォームが「こどハピ」です。

今回のPBLでは、子供向けの授業テーマとして、「漁師」または「農家」の二択とし、いずれかの職業を紹介する授業配信のシンシアージュ社内向け企画書を作成してもらいました。1チーム当たり5～8名 (25チーム) に分かれ、当該職業に関する情報を徹底的にリサーチし、それを踏まえた企画書を最終回にてチーム対抗でプレゼンしてもらいました。「カニ漁業」「きくらげ農家」などニッチで魅力的な職業紹介の授業企画が数多く提示されました。



久木田敬志氏  
(株式会社シンシアージュ代表取締役CEO)

第3弾のPBL (正課の授業) 終了後、プレゼンした企画書を実際に実現したいという有志が集まり、正課外のプロジェクトチームが組成されました。9月下旬にキックオフミーティングを行い、企画書をブラッシュアップさせ、年内までに配信用コンテンツを制作する段取りとなりました。有志の学生達は、実践型の長期インターンシップと同様、これからの約3ヵ月間、シンシアージュの社内でプロフェッショナルな社員と協働でコンテンツを制作していきます。

世田谷区部門「P B L 型授業のモデル構築 – 世田谷発の起業家教育」で採択された、経済学部の長山 宗広先生が担当されている経済学部の専門選択科目「アントレプレナーシップ養成講座」の授業を見学しました。

見学をした7月21日は、この科目の最終回ということで【「漁師・農家」に関する子供向けの授業】の企画のプレゼンの回でした。

どうしたら子供の興味、関心を引くことができるか、授業を通して何を学んでほしいか、という点に各チームが様々な工夫を凝らしていて、どの企画も大変魅力的でした。

また、自分たちの企画をどのように相手に伝えるかという視点で、資料やプレゼンの仕方がしっかりと練り上げられており、各チームの提案力の高さが感じられました。

これからの企画の実装がとても楽しみです。



〔世田谷区部門〕

## 動画制作を通じた「せたがやの居場所」発信プロジェクト（経済学部：松本典子先生）

9月16日にオンライン・ワークショップを行いました。まず、NHKサービスセンターの星野さんから、『企画書の書き方』のガイダンスをしていただきました。「企画書」というのは、動画を制作するにあたり、どのようなねらいで作るのかという意義を説明する文章です。その企画書を書く上で、ねらいは明確か、完成した姿が想像できるか、社会的意義が伝わるか、取材した事実を綴っているか、という4つを意識しながら書くことが、ポイントになることを学びました。

今回は、9月末に星野さんから『取材勉強会』として、取材の仕方に関する講義をしていただきます。その後、各グループで事前取材に行き、企画書を作成していく予定です。



〔産官学連携部門〕

## 産学連携による新商品開発と新たな販路開拓の実践プロジェクト（経済学部：吉田健太郎先生）

9月12日から9月14日にかけて、私たちは地場産業の国際化と販路開拓の成功要因に関する聞き取り調査ならびに参与観察を長崎県立大学と連携して長崎県雲仙で現地調査を実施しました。4チームに分かれて「株式会社小浜温泉ワイナリー」「あい娘酒造合資会社」「島原雲仙農業協同組合」「小浜温泉旅館組合」等、計11社を訪問しました。どこに課題があるかについて、各企業の社長や従業員の方々にお話を伺いました。こういった手法をとれば課題解決につながっていくのか、各チームでグループディスカッションを行いました。

その上で現地の方々に成果報告を行い講評していただきました。今回の聞き取り調査ならびに参与観察を経て、地場産業の国際化と販路開拓を通じて、「両利きの経営」といかに「関係人口」を作るか、いかに増やすかが重要であると理解できました。



〔社会連携センター：プロジェクト見学レポート〕

経済学部：山田 雅俊先生のプロジェクトの活動を見学しました。

SDGs部門で採択された、経済学部の山田 雅俊先生のプロジェクトが7月7日に行った「2022年度第3回新入生セミナー×現応ラボ企画 企業・団体の事業活動、社会連携活動・SDGs活動に関するセミナー 一駒澤大学に寄せる期待一」を見学しました。

今回は、オイシックス・ラ・大地株式会社、株式会社shabell / shabell inc.、ロート製薬株式会社、一般財団法人NHKサービスセンター、リコージャパン株式会社からキーパーソンを招き、「会社概要」「事業内容」「社会連携・SDGs活動」「働き方・キャリア形成」そして「駒澤大学に寄せる期待」についての紹介がありました。

とくに各企業・団体が掲げる理念に基づいたSDGs活動について、それぞれがもつ強みをSDGsの17の目標にどのように関連付けて事業展開しているか、また各企業・団体が目指す社会についてなど、身近な例を用いた説明に多くの学生が関心を寄せていて、その後に行われた各企業・団体へのブース訪問の際には、各ブースで活発な質疑応答が行われており、たくさんの学びや発見があったセミナーでした。



オイシックス・ラ・大地株式会社



株式会社shabell / shabell inc.



ロート製薬株式会社



一般財団法人  
NHKサービスセンター



リコージャパン株式会社



各企業・団体のブース訪問